

コントアネクスト[®] Clinical News No.2



Interview

1型糖尿病患者とデバイス —コントアネクスト[®] Link 2.4 による利便性への貢献

徳島大学先端酵素学研究所 糖尿病臨床・研究開発センター 准教授

黒田 暁生 先生

徳島大学先端酵素学研究所 糖尿病臨床・研究開発センター診療部門の概要

体制：医師4人、CDE2人（看護師1人、管理栄養士1人） 糖尿病患者数：外来/約1,000人/月（延べ人数、うち1型糖尿病患者約150人、インスリンポンプ使用者約40人） 入院/約100人/年（常時7～8人、そのうち1型糖尿病患者約1人・インスリンポンプ使用者0～1人）

最先端の高度医療を提供する徳島県唯一の特定機能病院である徳島大学病院で精力的に糖尿病診療を行い、ご自身も1型糖尿病である黒田暁生先生に、糖尿病診療における目標、インスリンポンプの利便性や導入の実際などについてお話を伺いました。また、ご自身でもお使いの血糖自己測定器 コントアネクスト[®] Link 2.4の使用感や特長をご紹介いただきました。

患者さんに満足いただきたい

私の目標はどこにも負けないコストに見合った医療を患者さんに提供することで、特に患者指導には力を入れています。Evidence-Based Medicine (EBM) を基本として治療に当たり、血糖コントロールを良い状態にすることはもちろんですが、さらに個々の患者さんに最適な医療を考えることで、患者さんに満足いただきたいと思っています。

特にインスリンポンプは高コストなので、治療効果やQOLの改善がそれに十分見合っているかを常に意識しています。私は自分が医師であると同時にインスリンポンプ使用者でもあるという利点を最大限に活かして、自分が持っているあらゆる知識を患者さんに伝えたいと考えています。

インスリンポンプの利便性は 使ってみるとよく分かる

インスリンポンプ導入の際はコストを説明し、それを負担できることが第一条件となります。さらに月1回の受診と1日4回の血糖自己測定がきちんとできることが必要ですので、導入前には3、4ヶ月通院していただき、それらがきちんとできているかを確認します。

インスリンポンプのメリットは、ベーサルインスリンをきめ細かくプログラムできることであり、例えば睡眠中の低血糖や暁現象にも対応が可能です。

もうひとつのメリットは利便性です。これは使ってみないと

実感できないかもしれませんが、インスリンポンプを使っている患者さんが注射剤で数日過ごしてみると「不便だな」と感じると思います。実際、私自身がそう感じました。

自動でインスリン注入を停止して低血糖を回避

私がコントアネクスト[®] Link 2.4を使い始めたきっかけは、ミニメド640Gへの切替えです。使い始めて3ヶ月ほど経ちました。ミニメド640Gで最も素晴らしいと思うのは、予測低血糖自動注入停止 (predictive low glucose suspend : PLGS) 機能です。これは私がずっと要望していた機能です。

具体的にはグルコース値があらかじめ設定された低グルコース閾値+70mg/dL以下になり、かつ30分後に低グルコース閾値+20mg/dL以下になると予測されると自動的にインスリン注入を停止します。その後、条件がそろえばインスリン注入が自動で再開されます。ミニメド620Gでは「低血糖になりそう」という警告のみだったため、私は警告を受けてもうまく対応できず、低血糖になってしまうこともありました。ミニメド640Gに切替えてからは、睡眠中も車を運転している時も低血糖の心配が少なくなり本当に助かっています。

血糖自己測定器からインスリンポンプへ 血糖値をワイヤレス送信

このシステムでほかに気に入っている点は、コントアネクスト[®] Link 2.4での血糖自己測定結果をミニメド640Gにワイヤレス送信できる点です。これまでは測定結果をインスリンポンプに手入力しなければならなかったのですが、手間がかかり負担になっていました。それに、万一入力を間違えると危険です。そこが自動になったのですから、利便性の面からも安全性の面からも評価できると思います。

私はミニメド640Gのインスリン投与量の自動計算機能（カーボカウントに基づく）のボーラスウィザードを使っていま

資料をご希望の方はこちらへ